淀川左岸線事故の復旧状況について

平成 23 年 12 月　9 日
阪神高速道路株式会社

平成 23 年 9 月 29 日に発生しました淀川左岸線正蓮寺川西工区（北港新橋付近）における土留め壁の崩壊事故につきまして、周辺住民の方々や河川管理者等関係機関の多くの方々にご迷惑とご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

現在、復旧方法の検討や復旧の作業、事故の原因究明等を実施しているところですが、それらの状況をご報告いたします。

１．事故現場の状況

仮水路の状況

事故により損壊した仮水路については、水路の仕切壁となる鋼矢板を設置するなどの作業を進め、１１月２２日に復旧が完了しました。

流入水の状況

事故により仮水路から工事現場に多量の水が流入しましたが、上流側のブロックにおいて、水質の監視ならびに現場の安全管理を強化しながら 河川への排水を 12 月 1 日より開始しました。

今後の対応

引き続き、周辺環境等地域の皆様の安全と安心の確保を最優先とし、工事現場の安全を確認しながら、周辺への影響監視と復旧を進めてまいります。

２．淀川左岸線事故調査技術委員会の開催

事故の原因推定および復旧方法を検討するための事故調査技術委員会(委員長：足立紀尚 京都大学名誉教授）を開催しています。

日　時：第１回委員会　平成 23 年 10 月　1 日（土）、5 日（水）、6 日（木）
第２回委員会　平成 23 年 10 月 17 日（月）
第３回委員会　平成 23 年 11 月 28 日（月）

場　所：阪神高速道路株式会社建設事業本部、事故発生現場（第１,３回のみ）

出席者：委員長　　足立紀尚　京都大学名誉教授
　　委　員　　常田賢一　大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻教授
　　委　員　　木村　亮　京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻教授

第１回実施状況

現地検討会において事故発生状況および対応状況を報告し、原因究明と復旧方法の検討を進めることとなった。

第２回実施状況（主な議題と審議結果等）

（１）　土留め壁崩壊状況

現時点では、視認できる範囲は限られているので、今後の土留め壁などの変状計測結果を見ながら対策を考えていくこととなった。

（２）　仮水路鋼矢板及び鋼管矢板の設計・施工

鋼矢板による仮排水路の復旧、鋼管矢板による土留め壁の復旧に関する設計・施工の基本方針について承認された。

（３）　現場調査計画

地質調査の位置、原位置試験及び室内試験等の調査内容について承認された。

第３回実施状況（主な議題と審議結果等）

（１）　地盤調査結果

今回の地盤調査の結果からは、当初に設定した地盤定数を下回るものも見られた。

（２）　土留め構造に着目した解析的な原因推定

地盤定数を低減して解析を実施した結果、土留め壁の背面の土が底部から回り込んで掘削面側の地盤が変形するモードが再現された。

（３）　復旧工

復旧に際しては、今回の地盤調査結果を反映した地盤定数を用いて設計を進めることが承認された。対策工は複数のメニューを検討するとともに、計測体制も強化することとなった。

今後の対応

本委員会での審議結果を踏まえて、事故原因の究明と復旧方法を検討して参ります。

今後も、周辺環境等へ影響を及ぼさないよう、また周辺住民の方々にご心配とご迷惑をおかけしないよう、関係機関と協議を進めて早期復旧と事故再発防止に努めて参りますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。